

水産庁も究明に乗出す

水俣病

来月熊本で研究会

水銀の有毒化など調査

水俣病の原因究明の主体は、さる十二日厚生省食品衛生調査会の水俣病食中毒部会（委員長熊本大学長）が解散したあと、厚生省から水産庁に移ったが、同庁では十二月中旬熊本市に熊本、東大、九大の各研究陣と水産庁関係者を集め、水俣湾などの魚貝類が有毒化する要因と過程を調査するための初会合をひらく。

厚生省食品衛生調査会は答申のなかで水俣病の原因を「有機水銀化合物」と結論づけたが、魚貝類の体内で無機水銀が有機化するプロセスは解明されないままになっていた。この問題を水産庁の立場から究明しようというもの。

①水俣湾およびその周辺の水銀分布と拡散状況の調査②海水中の微物質に吸着している水銀の調査③有毒魚貝類の分布調査④魚貝類の体内に生成または蓄積された有機水銀の検出研究⑤無毒魚を現地で飼育し、有毒化を調査研究する。

という五項目となっている。

これらの調査研究のため、県水試に今年度分として二十六万円が最近配分され、また水産庁では七八十万円を確保しているといわれている。

この会合に出席するのは後藤淑太郎（熊大理学部教授）南葉宗利（同）松江吉行（東大農学部教授）富山哲夫（九大農学部教授）石尾貞弥（同）町田喜弘（水産庁淡水区水産研究所）新田忠雄（瀬戸内海水産研究所）藤谷超（同）伊藤備（西海区水産研究所）辻田時英（同）市川収（農林省家畜衛生試験所）波部忠重（九大天草臨海実験所）加藤五郎（熊本県水試場長）の十三氏で、事業計画は、